

機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2055 号

Correlation of nutritional indices on admission to the coronary intensive care unit with the development of delirium

(CCU 入室時の栄養状態とせん妄発症との関連)

杉田 有里那 (すぎた ゆりな)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

せん妄は、集中治療室入室患者において高頻度に発症し、生命予後に影響する。低栄養はせん妄の発症素因とされているが、急性心血管疾患患者において入院時の栄養状態がせん妄発症を予測するかどうかについては明らかでない。本研究では、急性心血管疾患患者の集中治療室への入院時の栄養状態と、せん妄発症との関連について検討することを目的とした。2015年1月から2016年12月に当院CCUへ急性心血管疾患のために入院した患者連続653例(平均年齢 $70 \pm 14$ 歳)において、入院時の栄養指標としてGeriatric Nutritional Risk Index (GNRI)、Prognostic Nutritional Index (PNI)、Controlling Nutritional Status (CONUT)を算出し、各栄養指標とせん妄発症(Intensive Care Delirium Screening Checklist 4点以上)との関連について検討した。その結果、58例がせん妄を発症し、せん妄発症群では非発症群と比較し全ての栄養指標が有意に低栄養状態を示した(GNRI,  $86.5 \pm 9.38$  vs.  $91.6 \pm 9.89$ ; PNI,  $36.4 \pm 6.95$  vs.  $41.6 \pm 7.62$ ; CONUT,  $5.88 \pm 3.00$  vs.  $3.61 \pm 2.56$ ; all  $P < 0.0001$ )。またせん妄スコアの最大値は各栄養指標の重症度とも関連していた。単変量解析において有意差のあった高齢、女性、BMI低値、血清アルブミン低値、総コレステロール低値、HDLコレステロール低値、LDLコレステロール低値、クレアチニン高値、CRP高値、NT-pro BNP高値、急性非代償性心不全の診断、認知症の既往、抗精神病薬の内服について調整し多変量解析を行ったところ、PNIおよびCONUTがせん妄発症の独立した危険因子であった。急性心血管疾患患者において、入院時の低栄養状態はせん妄発症と関連していた。せん妄発症予防のために入院早期の栄養評価が有用な可能性が示唆された。